

令和 8 年度 校内研修実施計画書

1. 研究主題および教科

研究主題

主体的に学習に取り組み、仲間とともに学び合う子を育成する授業づくり

～確かな学力の育成をめざして～(2年目)

2. 研究主題設定の理由

(1) 学校教育目標と研究主題との関わり

本校は、知の教育（研修）、愛の教育（人権教育）、命と根っこの教育（生活指導）を通して、学校教育目標「すべてのこどもたちに居場所をつくり、生きる意欲を育む」の実現に向けた教育活動を推進している。知の教育においてこれまでの研究や実践と学校教育目標との関わりは次のようである。

○ 主体的に学ぶ 「8つのたい」

「見たい」「知りたい」「考えたい」「伝えたい」

「聴きたい」「読みたい」「書きたい」「活用したい」

児童が安心できる関係の中で、「〇〇したい」という意欲をもって教育活動に取り組むことで、自分のもつ力を発揮し、高め合ったり、認めたり認められたりする経験を重ねることができると考える。また主体的に学ぶ姿勢が身につくことで、自信をつけたり、集団の中で手ごたえを感じたりすることができ、やがては自分の居場所を実感できるこどもに育つと考えている。

○ 仲間とともに学び合う

自分で考えたことや仲間との対話を通して感じたことや学んだことを伝え合ったり、聴き合ったりすることで、自信を深めたり、仲間とのつながりをより強く感じたりすることが期待できる。こうした経験の継続によって、自ら学ぶことや仲間と関わることへの意欲が高まり、やがては生きる意欲を育むことにつながると考える。

(2) 学習指導要領が目指すものと本校の研究の関わり

学習指導要領では、こどもたちがグローバル化や AI 技術の急速な発展といった、変化の激しい（予測困難な）時代を生き抜くための「生きる力」の向上を重視している。学校教育では、こどもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値づけにつなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになることが求められている。

こうした中で、私たち指導者が教育活動全般を通して意識していきたい柱を次のように述べている。①「何を理解しているか、何ができるのか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）である。

これらをバランスよく育成すること、そしてそのためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められているといえる。

主体的な問題解決につながる学習課題を設定することや、自分の考えをもち、表現し合うことを通して学びを深める学習活動の追究など、本校が行っていきたい研究の流れは、学習指導要領の示す授業改善の方向性と一致するものであると考える。

したがって、本校のこどもたちの実態を踏まえた具体的な実践を通して、学習指導要領の具現化への方策を吟味・検討していきたい。

（３） 今年度の研究について

昨年度より、窓口とする教科を国語科から算数科に変更し、研究を行ってきた。研究の成果として、ペアやグループでの活動や全体での交流を授業で取り入れることで、こどもたちが考えを仲間と伝え合う力を高めることができた。また振り返りを継続的に行うことで、こどもたちが自分の考えを言葉で表現したりまとめたりする力や、次の学びを見通す力もつけることができた。多様な仲間の考えを知って自分の考えを深めたり、授業での学びを自主学習に活かしたりと、学びへの主体的な姿を引き出すことにもつながった。

一方で、こどもたちの主体的な姿を引き出すための課題設定に難しさを感じた。生活に即した場面設定や具体物の活用など様々な工夫をしながら授業を行ってきたが、単元を通した課題設定ではなく、本時（１時間）の冒頭でこどもたちの興味を引くための工夫にとどまるが多かった。これまで実践してきた工夫に加え、こどもたちが「知りたい。」「考えたい。」と単元を通して粘り強く活動に取り組めるような課題設定や、算数的なおもしろさに気づくことができるような課題設定を検討していく必要がある。また学習方法や協働する相手を自ら選択しながら、学びを深めていくことができるような環境整備にも力を入れていきたい。算数用語を使いこなして自分の考えを表現したり、仲間と伝え合ったりする力を高めていくことで、昨年度よりもさらに自ら学びを進め、深められるこどもたちになると考える。

また全国学力学習状況調査（国語・算数・理科）や児童質問紙の結果から、家庭学習の時間が平均に比べて短いことや、自分の考えを説明する力が弱いこと、主体的・協働的に学ぶ意欲が低い傾向であるとわかった。さらに、非認知能力に関する課題も明らかになった。特に「やりぬく力」や「社会性」に関して否定的な回答をすることも多く、こどもたちの非認知能力を高めるための取組も必要である。

これらの成果と課題を踏まえ、今年度も引き続き窓口とする教科を算数科として研究・実践に取り組んでいく。

3. 研究内容及び方法

授業力 UP 5 ★ver.2 を活かし、本校では研究主題に関する 3 つの仮説を立て、それぞれ検証していく形で研究を進めていく。

《仮説 1》

教師が課題設定を工夫することで、こどもたちが主体的に課題解決しようとする。

《仮説 2》

こどもたちが互いの考えを仲間に伝え合ったりつなげたりすることで、主体的に学び合おうとする。

《仮説 3》

振り返りをするすることで、こどもたちが主体的に学ぶサイクルができる。
→こどもたちが日常生活から問いをもって授業や家庭学習に取り組むようになる。

文部科学省によって示されている「主体的な学び」を参考にした。「主体的に学習に取り組む」こどもとは具体的にどのような姿であるのか、改めて共通理解を図った。

《仮説 1 に関して》

- ・目の前の課題に対して、「やってみよう」「考えてみよう」と自ら考えようとする姿。
- ・これまでの学びを活かして、課題に対して「こうやって考えたらいいな。」などと解決しようとする姿。
- ・「みんなでやってみよう。」と仲間とともに粘り強く取り組む姿。

《仮説 2 に関して》

- ・こどもたちが、答えに至るまでの思考や過程の相違点を友達と伝え合い、楽しむ姿。
- ・自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための表現や方法を検討する姿。
- ・わからないことに対して、仲間に「教えて」と素直に伝えたり、そのような仲間に自分の考えを説明しようとしたりする姿。

《仮説 3 に関して》

- ・「わかった」「できるようになった」といった達成感を得る姿。
- ・学習したことを応用して日常生活の中の問いを解決しようとしたり、「次はこんなことをしてみたい」とこどもがみずから次の学びを考えようとしたりする姿。

今年度本校がめざすこどもたちの「主体的な姿」は、以下の 4 つである。

- ①学習課題に対して、興味・関心をもっていること。
- ②課題に取り組んだり解決したりするための見通しをもっていること。
- ③学び方や学ぶ相手を選択しながら、粘り強く取り組んでいること。
- ④自分の学びの振り返りができること。また学びを次の学習につなげられること。

このような姿を引き出すための授業づくりの工夫や手立てを検討し、実践していく。うま

く引き出せた姿や今後めざしていきたい姿を、日常的な学年会や校内研修、スライドを使った実践交流で振り返り、次の授業づくりや指導に活かしていく。

また研究主題に迫るために、以下のような取り組みをしていきたい。

① 課題設定の工夫 《仮説1に関連》

→買い物、等分、距離など、日常生活と結び付けた課題にすることで、こどもたちが考える必要性を実感できるようにする。また低学年を中心に具体物を活用し、操作活動などを通して学習への理解を深められるようにする。さらにこどもたちの振り返りや疑問からめあてを設定し、考える必要性を実感させたうえで学習を始められるようにする。他にも単元を貫く課題を設定するなど、様々な実践に取り組みながら、主体的に学び続けるこどもたちの姿を引き出したい。

② 各単元の系統性の理解

→こどもたちが既習事項を使ってよりよい問題解決方法を選択できるようにする。

③ ICTの効果的な活用 《仮説2に関連》

→ペア活動や班活動、全体討議など、こどもたちが互いの考えを伝え合う場面を、教科を問わず授業の中で取り入れていく。このような活動に加え、こどもたちが自分の考えを広げてまとめたり、友達と考えを伝え合ったりできるようにICTを積極的に活用していく。こどもたちが学びを深めたり、協働する相手を選んだりすることができるよう、教師同士で実践を共有しながら取り組んでいきたい。

④ 丁寧なノート指導 《仮説2・3に関連》

→こどもたちにとって、学びや思考を残すノートになるようにする。また毎時間の学びの振り返りを残すことで、次回以降の見通しを立てたり学びを活かしたりできるようにする。

⑤ 家庭学習への意欲を高める工夫 《仮説3に関連》

→自主学習ノートに取り組むだけでなく、こどもたちのノートを学級や学年で交流しながら、こどもたちの学びを価値づけていく。こどもたちが学校での学びを生活と結びつけたり、興味をもったことをみずからすすんで学ぼうとしたりする姿を引き出す。

⑥ 授業づくりと仲間づくり

→授業での活動や児童同士の伝え合い、学び合いを通して仲間づくりをすすめていく。

⑦ 授業力向上のための取り組み

→全体研修会、授業公開期間の設定、ミニ研修、板書やノートの交流、実践交流など、様々な方法や手立てを交流したり学び合ったりできるような機会を作る。また教師の基礎的な指導スキルを身につけるための「レベルアップ研修」も行っていく。

さらに、全教科・活動を通した学びの基盤として、昨年度に引き続き、**話す、聞く、読解力の向上、書く力の育成、読書の量と質の向上**にも取り組んでいく。これらは確かな学力の定着だけでなく、こどもたちが安心して過ごせる学級づくりにもつながるため、しっかりと意識し、日常的に丁寧に取り組んでいく。

年間計画 5月22日（金）現在

一学期	4月 1日（水）	アイスブレイク
	4月 6日（月）	学級開き・授業開きに向けて 学習規律について
	4月27日（月）	研究方針・具体的方策等について
	4月27日（月）	ミニ研修「授業の組み立て方」「協働的な学び」について
	5月18日（月）	ミニ研修「オクリンクプラスの活用」
	6月 8日（月）	読書活動について
	6月17日（水）	6年生 全体提案授業（指導主事招聘）
	6月29日（月）	ミニ研修「体育の授業づくり」
	7月	1学期の各自の実践をスライドにまとめる。
二学期	8月 5日（水）	校内研修会 実践の交流、学調・みえスタの分析より
	9月30日（水）	3年生 全体提案授業（指導主事招聘）
	11月11日（水）	2年生 全体提案授業（指導主事招聘）
	12月	2学期の各自の実践をスライドにまとめる。 研究の総括
三学期	1月	2学期の実践の交流 総括で明らかになった課題をふまえた授業づくりの検討
	2月	研究の総括
	3月	来年度の方針

ミニ研修、レベルアップ研修を定期的に行う。（日程未定）